



中春別小学校
学校便り

窓

第9号

発行責任者 校長 若松 正
令和5年11月30日発行

つないでいく

感染症が5類に引き下げられて半年あまりとなります。今年度は入場制限なしということで、久しぶりに学校区の保育園のお遊戯会、そして中学校の文化祭の発表を鑑賞する機会に恵まれました。本校の学芸会も合わせて3つの発表会。仲間と力を合わせ、自分の任せられた役割に近づき、なり切るために力いっぱい演じ、舞い、歌を届ける姿には胸を打たれっぱなしでした。そして、大勢の人前でステージに立つ勇氣に、人の心をゆさぶる演技に、観客を巻き込み一体感を生み出す存在感に、その12年間あまりの期間に積み重ねられてきた成長の大きさに、感動を覚えました。

練習しているときや本番に臨むときに心に留めた“大きな声で”、“身振り手振り”、“自然に”、“表情豊かに”、“観ている人に伝わるように”、“役になり切る”などの目標に年齢の違いはないと思います。けれども、発達段階に応じて演技の幅や表現の奥行きには違いがあります。螺旋のごとく積み重ねられた経験により培われた読解力や状況を判断する力、そして表現力などは年齢に応じて大きく伸長します。子どもたちが見せてくれた成長は、ご家庭と連携し、保育園・小学校・中学校がつないできたバトンの結実だと感じます。

つなぐといえば、令和8年度に向け別海町では小中一貫教育に向けた取組が進められており、中春別学校区でも保小中における教育活動の接続に向けた取組を進めているところです。

以前お伝えしましたが、今年度は4年ぶりに保育園と小、中学校の職員連携を図ることを目的とした保小中連携委員会が再開し、校種間の授業参観交流も始まっています。12年間の学びを途切れさせないためには、入学する前にはどのような学びがあり、卒園・卒業したあとにどんな学びが待っているのかをお互いが知り合うことはとても大切なことだからです。

また、教育活動の指針となる“目標の重点”や“めざす子ども像”などの共有は欠かせません。今後、職員が一堂に会して、子どもを主役とした研修交流ができるよう計画を立てていく予定です。

小1プロブレムや中1ギャップなどの話も耳にしますが、入学に際しなるべくストレスを少なくしてスムーズに適応できる環境整備も必要です。それと同時に、子どもたちには、先行きが不透明で、将来の予測が困難といわれる時代を生きていく力を養わなければならないと考えています。これからの長い人生の中で少なからず新しい環境^{ストレス}に出会う経験もあることと思います。だからこそ子どもたちにはどんな未来にも負けない力を身に付けさせてあげたいと思います。そのためにも丁寧に子どもたち一人ひとりに向き合い、学びに向かう主体性、協働性を育むとともに、自己肯定感の涵養に努め、胸を張って新たな学びへのステップを踏み出すことのできる子どもたちの育成を目指す職員集団でいられるよう保小中の校種間連携を進めてまいりたいと考えています。

冬支度。校地のあちらこちらに紅白のポールが立ち、取り外されたシーソーやグルグル巻きのブランコ。路面を覆い隠す小米雪はまるで冬化粧の練習のよう。気が付けばすぐそばまで来ていた冬。

どうぞお体にご留意いただければと存じます。